

福祉・健康

Q 医療用ウィッグ、乳房補正具などへの助成について

A 令和7年度からの実施に向け準備を進める

埼玉県のアピランスケア事業のチラシ



答 がん治療と社会性を両立し、安心して自分らしい生活を送るために、ウィッグや乳房補正具などの購入費用の一部を助成する事業を7年度から実施する準備を進めている。

問 本市での助成について。
答 令和6年度から市町村が、がん患者に対し助成をした際に補助金を交付するアピランス助成事業を開始した。

問 県の医療用ウィッグ、乳房補正具などの購入費助成の取組は。

答 令和6年度から市町村が、がん患者に対し助成をした際に補助金を交付するアピランス助成事業を開始した。

問 現在、事業を実施していないが、重要であると認識している。

問 アピランスケアとは、医学的、整容的、心理社会的支援を用いて外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのことである。市の取組は。



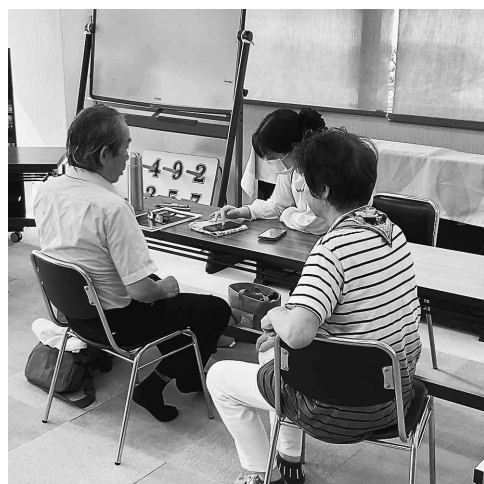
やまなか
もとちか
山中 基充
議員



福祉・健康

Q 高齢者への支援体制について

A 高齢者を支える仕組みづくりに取り組んでいく



スマホよろず相談の様子

問 独り暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯への支援について。
答 社会からの孤立を未然に防止し、必要な支援やサービスの確につなぐ体制をつくるのが不可欠である。今後、生活支援員や地域包括支援センターの職員が戸別に訪問し、必要な相談・支援につなげていく。

問 見えてきた今後の方向性と課題について。
答 今後更なる高齢化が進展し、独り暮らしの高齢者や認知症高齢者などの増加も見込まれるため、支援体制の構築が大きな課題の一つである。これまでも高齢者実態把握調査などによる必要な支援や地域の関係機関と連携した相談支援体制の強化を行ってきた。引き続き取組を継続するとともに高齢者を支える仕組みづくりに取り組んでいく。



おがわ
しげる
小川 茂
議員



福祉・健康

Q ユマニチュードについて

A 有用であると認識している



介護負担軽減のために

問 ユマニチュードの周知へ見解は。
答 平成29年度に家族介護教室で、ユマニチュードの技法を用いた認知症ケアの講義を行った。今後も地域包括支援センターや認知症ケアに関わる介護の関係者の話を伺いながら、ユマニチュードの周知を検討していく。

問 ユマニチュードは、ケアを受けている人に対して、「あなたは私にとって大切な存在です」と伝えるための技術である。ユマニチュードに対する市の見解は。
答 認知症ケアの基本は、認知機能をこれ以上、低下させないよう支援するとともに、心のケアを含めたサポートをすることである。ユマニチュードの技法は、認知症ケア対象者の尊厳、人間らしさを尊重するという点において有用であると認識している。



こばやし
ひとみ
小林ひとみ
議員

